

2024年5月31日  
株式会社 Datachain  
Progmatic, Inc.

## Datachain と Progmatic、ステーブルコイン事業協業。商用化に向けたスマートコントラクト開発完了およびテストネットにおける移転取引成功

株式会社 Datachain (代表取締役: 久田哲史、以下 Datachain 社) と Progmatic, Inc. (代表取締役: 齊藤達哉、以下 Progmatic 社) は、Progmatic 社が開発を主導するステーブルコイン (以下、SC) 発行管理基盤「Progmatic Coin (プログマコイン)」を用いて発行される SC の提供及び AUM (運用資産残高) の最大化に向け協業いたします。具体的には、従来からのマルチチェーン/クロスチェーン展開に加えて、ステーブルコインのコントラクト開発およびグローバルマーケットでの事業開発を、Datachain 社と Progmatic 社が協働して推進します。



### 1. 背景

2024年5月現在、全世界のステーブルコイン市場規模は、1,600億ドル(約25兆円)を超える規模となっています。ブロックチェーン上のサービスにおける利用だけでなく、リテール決済や法人間決済における利便性向上といった様々なユースケースも検討が進行しています。

現時点では、米国 Circle 社が発行する USDC や、香港 Tether 社が発行する USDT がその多くを占めています。Tether 社の 2024 年第 1 四半期の純利益は 45 億ドル(約 7,000 億円)に及んでおり、非常に注目されている領域です。

一方、既存の SC において、規制対応や価格の不安定さなどの課題が多く、規制に準拠し、国際的に信頼の高い金融機関が発行する、安心・安全な SC が求められています。日本国内では、2023 年 6 月に施行された改正資金決済法の中で SC が定義され、同法案に準拠した SC の発行に向けた準備が進められています。

Progmatt 社は信託銀行等の SC 発行体と連携し、SC の発行管理基盤「Progmatt Coin」の開発を主導しており、SC を取り扱う仲介者が必要なライセンス登録を完了し次第、同基盤を用いた SC の発行・流通が可能になる予定です。各 SC は、JPY、USD、EUR 等の主要法定通貨での発行が可能で、グローバル市場を見据えた展開を想定しています。

## 2. 本取り組みについて

本取り組みの目的は、Progmatt 社と Datachain 社による、「Progmatt Coin」を用いて発行される SC の AUM 最大化です。具体的には、ステーブルコイン事業において流動性の鍵となる以下の2点を、Progmatt 社と Datachain 社が協働して推進します。

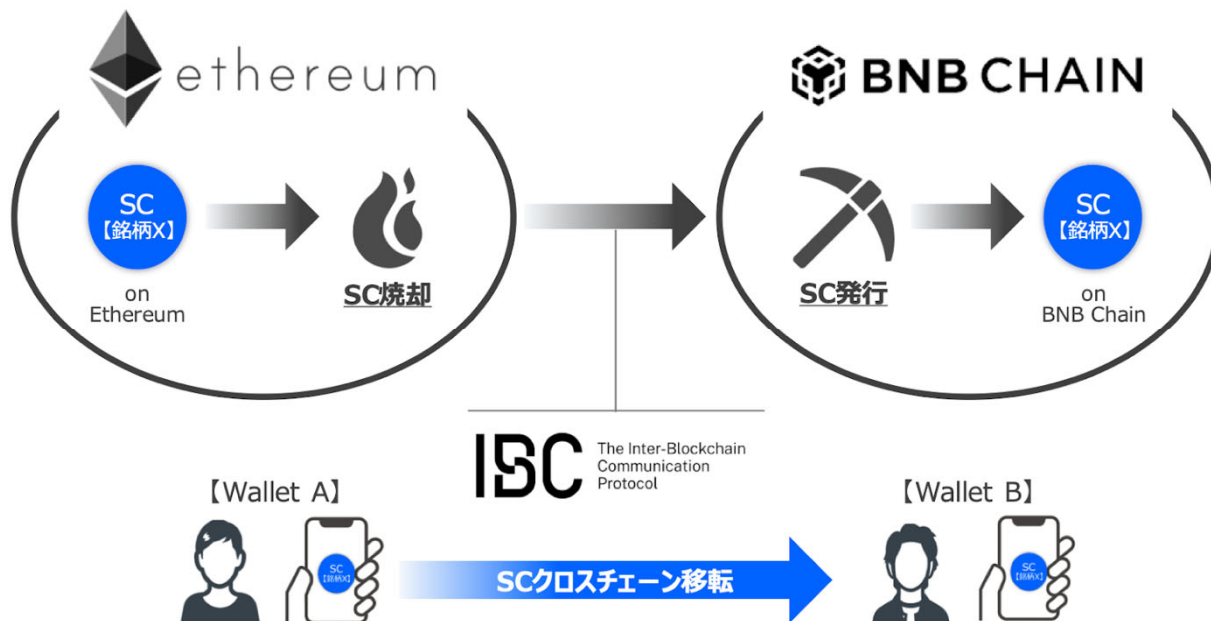
協業領域	詳細
スマートコントラクト開発 (マルチチェーン展開/クロスチェーン機能)	「Progmatt Coin」基盤で発行される SC について、複数のブロックチェーン上での登録・発行・移転、複数のブロックチェーン間のブリッジ機能を提供するためのスマートコントラクト開発。
グローバルマーケットにおける事業開発	「Progmatt Coin」基盤で発行される SC を用いたクロスボーダー決済など、国際的なユースケースを創出するための事業開発。

このうち、スマートコントラクト開発については、SC の登録・発行・移転といった標準機能の開発がすでに完了しており、複数のパブリックチェーン (Ethereum と BNB Chain) のテストネット環境において、異なるブロックチェーン間で SC の移転取引が正常に実行されることが確認できています。

同移転取引では、Burn-Mint 方式を採用しています。これは、一方のブロックチェーン上で SC を Burn (焼却) し、もう一方のブロックチェーン上で同量の SC を Mint (発行) する方式であり、従来の主要な方式に対して、資本効率・ユーザー利便性に優れています。現時点では、米国 Circle 社の USDC 以外の SC は同方式を実現できておらず、「Progmatt Coin」基盤の Day1 (システムリリース時点) から Burn-Mint のクロスチェーン移転を実現できる唯一の SC となる見込みです (2024 年 5 月時点 / 当社調べ)。

「Progmatt Coin」基盤を利用して発行する各 SC では、上記方式を、Datachain 社が開発貢献する IBC \*3 というブロックチェーン間の通信プロトコルを用いて実装しています。これにより、より安全で汎用性のある形式で資本効率に優れたブロックチェーン間の SC 移転機能の提供が可能になります。

IBC を用いて対応するブロックチェーンは、各チェーンの取引コストや取引速度、関連するエコシステムの大きさ等を勘案し、SC 利用者のニーズに即して順次対応範囲を拡大していきます。



### 3. 今後の予定

Progmatt 社と Datachain 社では、信託銀行等の SC 発行体と連携し、2024 年内の「Progmatt Coin」基盤を用いた SC の発行と、その後の AUM 最大化に向けて、追加機能の開発および国内外の様々な金融機関や SC 利用企業との協議を進めてまいります。

個別の取り組みについては、準備が整い次第、発表させていただく予定です。

- \*1) スマートコントラクト: ブロックチェーン上で任意の取引を実行するために必要なプログラム
- \*2) テストネット: 各ブロックチェーンネットワークが用意している、テスト環境
- \*3) IBC: ブロックチェーン同士の相互運用性を担保するための仕様標準。Inter-Blockchain Communication の略称。

### 各社の役割・概要

(1) プラットフォーム「Progmatt Coin」提供者

商号 : Progmatt, Inc.

代表者 : 代表取締役 Founder and CEO 齊藤(さいとう) 達哉(たつや)

URL : <https://progmatt.co.jp/>

(2) 「Progmatt Coin」のスマートコントラクト開発及び事業開発による AUM 最大化

商号 : 株式会社 Datachain

代表者 : 代表取締役 久田 哲史

URL : <https://ja.datachain.jp/>

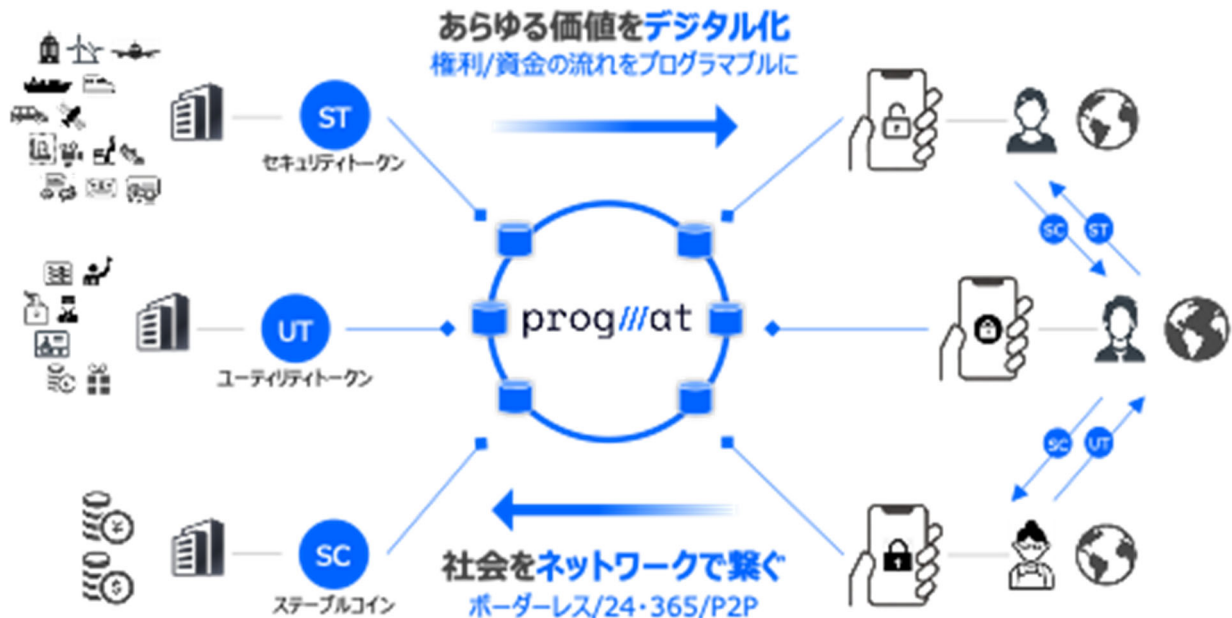
\* 株式会社 Datachain は、株式会社 Speee (本社: 東京都港区、代表取締役: 大塚 英樹、東証スタンダード市場: 4499) の子会社です。

◆「Progmatic (プログラマ)」について

Web サイトおよび解説記事を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

Web サイト:<<https://progmatic.co.jp/>>

解説記事:<[https://note.com/tatsu\\_s123/n/n03a291fa52ab](https://note.com/tatsu_s123/n/n03a291fa52ab)>



◆「Progmatic Coin (プログラマコイン)」基盤について

「Progmatic Coin」基盤は様々な SC を発行・管理するためのインフラです。

資料を公開しておりますので、以下 URL からご覧ください。

資料:<<https://speakerdeck.com/progmatic/sc>>

解説記事:<[https://note.com/tatsu\\_s123/n/n406e5cfa9flc](https://note.com/tatsu_s123/n/n406e5cfa9flc)>



本件に関するお問い合わせ先

株式会社 Speee IR 担当: [ir@speee.jp](mailto:ir@speee.jp)